

新たな核軍拡を招く米本土ミサイル防衛（NMD）を押しすすめるためロシア、中国などの説得にあっていた。核軍縮をすすめる一方で、同時にNMDをすすめるこの米国政府の不誠実さに各国から抗議や非難の意見がたくさん出された。

葛 IPPNW の新たな動きから

以上のように状況は大きく変化しているが、核保有国が固執する核抑止力政策を変えさせるにはまだまだである。NGOとして新たな戦略、一層の努力が必要であるという共通認識のもと、具体的な行動提起の提案が多くなっていた。

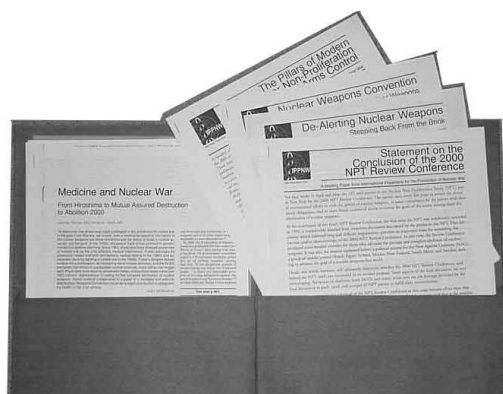
新しい戦略

インターネット上で3つの作業部会、すなわち「核兵器廃絶」「戦争防止」「新宣伝タスクフォース IPPNWの活動をより効果的にPRするために」が大会前に開始され、今後の2年間の具体的な行動計画が作成された。

「核廃絶」作業部会の提案は、「核兵器が使用された場合の健康への影響を明らかにし、それを医学教育にどう盛り込むか、公教育にどう盛り込むかを検討する」「核兵器は毒であり、それに関した出版物を出す」「大事なことは意思決定者、特に核保有国と話し合うこと」「研究課題として『核がなくなったらどうなるか』という政治家の恐怖に対して『軍縮が行われても情勢は不安定にならない』ということをどのように分らせるか」などである。今後も作業部会は継続される。

核廃絶の処方箋集（写真参照）

会場では活動の武器として処方箋集が発表、



IPPNW による核兵器廃絶のための処方箋集

配布された。内容は前述した「NPT再検討会議」「核廃絶条約」「核兵器の照準外し」「偶発的核戦争」「核兵器の使用、製造、テストの医学的影響および、環境に及ぼす影響」などの論文とレッドペーパーからなる。具体的なデータや提言が満載されており、ロビー活動や地域で活用されることを目的としている。我々も日本版を作成したい。

次回ワシントン大会の意味

次回世界大会は、2002年5月1～5日にアメリカのワシントン特別区で開催される。これは明らかに米国政府へのロビー活動を意図してのことであり、期間中に「意思決定者との対話の日」が設定され、合衆国議会に専門家として圧力を与える実践活動が予定されている。次回NPT会議（準備会議はこの頃より開始される）での期限を明確にした核廃絶実現化に向けた実践的プログラムの一環である。

ピースプロモーションを

活動の中心がロビー活動に大きくシフトする一方、基本的課題である平和教育や宣伝活動などについても大いに討論された。平和教育は、まだ少数ではあるが、すでに欧米では具体的にカリキュラムが作成され実施されていること、その作成には学生も参加していることなどが紹介された。そして、人権を重視する立場からの平和教育の重要性が強調され

I P P N Wは、軍事的優位性が国際関係を支配することを終わらせるリーダーシップを求め、核保有国の意思決定者との対話をすすめてきた。米国議会はC T B Tも地雷禁止条約の批准もできなかった。一方で核の臨戦態勢を取り続け、N M Dのテストをしている。

次回大会をワシントンで開催するのはこの政治の流れを変える機会を作るためである。医師として、より健康的な世界の実現をめざし、21世紀には平和と正義のためのハーグアピールの実現を求める。南北両朝鮮の参加を歓迎し、平和的統一に協力する。ここパリで我々は互いに勇気付けられ力を新たにした。平和な世界を作ることを継続する。

葛おわりに

N G Oは力をつけたと言われている。単に反対する時代は終わり、政策を提言できる力量を持つにいたった。しかし、こと核兵器廃絶に関しては保有国の固執する力の方が遙かに強い。

今回の大会では、今まで以上にN G Oとしてのロビー活動の重要性が強調された。これまでの「意思決定者たちへ手紙を書く運動」「中堅国への働きかけ」「他の専門的N G Oとの共同作業」などの実績に基づいたアプローチであり、21世紀の国境を越えた政治のあり方のひとつを示すものであろう。我々としてもこの手法を大いに学ぶ必要がある。少しは変わりつつあるようだが、わが国の政府がN G Oの意見に耳を傾けようとしなないのは残念なことである。

情報通信の発達が発達そのものを大きく変えている。事前にネット上で作業部会の準備

が開始され、大会終了後もそれがネット上で継続される。インターネットを使えば世界は簡単にひとつに結ばれる。メールを通して交流を継続することも重要である。帰国したときにはすでに自宅にメールが届いていた。

しかし、草の根運動であること、すなわち周囲の人々に地道に働きかけることが重要であることに変わりはないことも忘れてはいけない。具体的行動を起こすことも大切である。

「つどい」はI P P N Wのアシュフォード会長も招き、10月21～22日に大阪で「核のない21世紀へ N G Oの役割を強めよう」というテーマで全国大会を開催する。「つどい」として、一医師として何ができるか？いかに回りの人を動かすか？などを討論したい。多くの方の参加と素晴らしい提案を期待している。

大会は正直言って盛りだくさん過ぎた。英語が苦手な我々にとって通訳を介しての討論参加では限界がある。せめて英文の要約が会場で配布されたらもっと理解が深まるのだが……。

最後に、学生代表の閉会の言葉から“ We have the power to change ”。私達の言葉でもある。

「つどい」のホームページは
http://www1.doc-net.or.jp/no_nukes/index.html

I P P N Wの雑誌定期購読予約について

I P P N Wでは、寄付を兼ねて以下の出版物の定期購読者を募集している。Vital Signs、Medicine & Global Survival、Nuclear Weapons Convention Monitorなど。例えば、一括の場合は年間100ドル(米国外+30ドル)。詳しくは「つどい」の事務局(保団連内)まで。

(まつい かずお)